

札響の音楽文化

北海道大学 非常勤講師 三浦 洋（北海道情報大学 教授）

【授業の目標】

北海道唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団（略称・札響）の演奏会を聴いてクラシック音楽に親しむ。また、札響メンバーとの交流を通じて、音楽、楽器、芸術について考え、地域に根ざした音楽文化のあり方を模索する。

【ワークショップ概要】

2010年度後期全15回にわたって開講した本講義のなかで、2011年1月13日（木）に札幌交響楽団から下記9名（敬称略）をお招きし、ワークショップを開催しました。

三原 豊彦氏（ヴァイオリン、1st）、福井 岳雄氏（ヴァイオリン、2nd）、三原 愛彦氏（ヴィオラ）、荒木 均氏（チェロ）、飯田 啓典氏（コントラバス）、
市川 雅敏氏（ホルン）、多賀 登氏（クラリネット）、
藤原 靖久氏（パーカッション）、
吉岡 幹雄氏（パーソナルマネージャー）

【スケジュール】

1. 挨拶
- 2-1. 楽器演奏（弦楽器のみ）
Eine Kleine Nachtmusik 弦楽器のためのセレナーデ 13番ト長調 K.525
(Wolfgang Amadeus Mozart 作曲)
- 2-2. 楽器の説明①弦楽器
3. クイズ※学生参加
Antonio Lucio Vivaldi 作曲の四季を春夏秋冬とは違う順序で演奏し、学生が正しい順序を三択の中から選ぶ。
- 4-1. 楽器の説明②金管楽器（ホルン）
- 4-2. 楽器演奏（ホルン主役）
ホルン五重奏曲 変ホ長調 K.407 から第一楽章アレグロ（Wolfgang Amadeus Mozart 作曲）
- 5-1. 楽器の説明③木管楽器（クラリネット）※学生参加
- 5-2. 楽器演奏（クラリネット主役）
クラリネットポルカ
- 6-1. 楽器の説明④打楽器
- 6-2. 楽器演奏（打楽器主役）※学生参加
おもちゃのシンフォニー
7. 質疑応答

1. 挨拶

札響では年間 10 億円という予算のうち、約 4 割を自治体と国からの補助に頼り、残りの 6 割を年 120 回ほど の演奏活動(年 10 回の定期演奏会、地方自治体や後援企業での演奏会、Kitara コンサートなど)で賄っています。その他に室内楽の演奏会や老人ホームでの演奏、小学校などでのワークショップも行っています。今回の講義では小学生向けに開いているワークショップを北大の学生に体験してもらうことで音楽文化の重要性と理解を深めることが目的です。

2-1. 楽器演奏（弦楽器のみ）

Eine kleine Nachtmusik の演奏でワークショップが始まりました。



この後、学生達は椅子を離れて団員の周りに座って聴講しました。

2-2. 楽器の説明①弦楽器

演奏に続いて弦楽器の説明です。チェロの荒木 均氏が弦楽器を代表してお話を聞かせてくださいました。写真(2-1)の左からファースト・ヴァイオリン、セカンド・ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスと並んでいます。ファースト・ヴァイオリンとセカンド・ヴァイオリンの役割の違いやヴィオラ、ヴィオラよりも 1 オクターブ音が低いチェロ、一番大きいコントラバスの紹介がありました。これらの楽器の表板は松、横板・裏板・ネック・駒はカエデ、指板・糸巻き(ペグ)など黒っぽい部分は黒檀や紫檀などの木材で作られます。また弓は馬の尻尾を漂白して表面に松脂を塗ったものだそうです。



授業では実際に弓の端を外し、ふさふさと馬の尻尾のように揺らした状態を見せてくださいました。

3. クイズ

クイズでは札響の皆さんのがビバルディの四季を減茶苦茶な順番で演奏した後、学生達が 3 つの選択肢から 1 つを選び並びます。小学生でも 5 割の正答率ということでしたが、北大生もやはり 5 割の学生が正解できました。参考までに答えは【秋、冬、春、夏】の順でしたが、ほぼ同数で別の選択肢【夏、秋、春、冬】を選んでいました。音楽から季節や風景を想像するのは大人でも子供でも難しさに変わりはないということでしょうか。

4-1. 楽器の説明②金管楽器

金管楽器を代表してホルン奏者の市原 雅敏氏が楽器の基本構造やホルンとトランペット違いなどをお話し下さいました。楽器というのは必ず発音体があり、発音体から出た音を増幅する拡声器で構成されています。先ほど弦楽器の場合は弦が発音体で箱が拡声器になっており、金管楽器の場合は唇が発音体で円筒形と円錐形の真鍮の管の部分が拡声器になっています。金管楽器の構造は皆基本的には同じで管が太く長ければチューバのような低い音が出ます。昔はホルンもトランペットもピストンがない唯の金属の管でした。ですからホースのような長い管にマウスピースを取り付ければ原理的には同じような音がでるはずです。このようにお話されたところで青いビニールホースの登場です。



見た目は先端にロートのついた青いビニールホースですが、プロが吹くと本物のホルンのような音が教室に響き学生達のどよめきが広がりました。ホースを細く長く巻くとトランペットのように見え、丸い形に巻けばホルンの

ように見えます。

ホルンをよく見てください。ホルンはオーケストラで使用する楽器の中で唯一後ろ向きに音が出る楽器です。また演奏も右手ではなく左手で行います。トランペットは前向きに音が進み演奏は右手で行いますが、この違いは楽器の起源に由来します。ホルンはもともと角笛で馬に乗って吹くものでした。その際、右手は手綱を握っていたために左手で演奏する習慣が残りました。楽器の音が後方に出るのは、狩猟で先頭にいる人がホルン(角笛)を使って獲物発見の合図を後方に伝えた姿の名残です。一方、トランペットは戦闘の際に部隊の後方に位置して攻撃の合図を送る道具であったためまっすぐ前に音が進む構造になりました。

4-2. 楽器演奏（ホルン主役）

説明に続いてホルンが主役の曲【ホルン五重奏曲から第一楽章(モーツアルト作曲)】が演奏されました。

5-1. 楽器の説明③木管楽器（クラリネット）

続いて木管楽器について多賀 登氏から説明がありました。クラリネットはリードが振動して音が出ます。このリードはクラリネットの場合はシングルリードといって、葦を削って薄い板状にしたもので、一枚では音が出ないのでマウスピースに装着して音を出します。同じような楽器でオーボエがありますが、オーボエの場合にはダブルリードという二枚の板で音を出します。ですから薄いペラペラの板が二枚と管があれば木管楽器の構造が再現できるはずです。





用意周到なチェロの荒木氏がビニールストローを取り出し、はさみを使ってリードと管の部分を造ります。学生も参加してストロー楽器の作成に挑戦しました。クラリネットの多賀氏がストロー笛を鳴らしながら、チェロの荒木氏がストローを短く切っていくと音階が変化していき、音の高低と管の長さの関係を実感できました。木管楽器では管の長さを変える機能を指の穴が担っています。



5-2. 楽器演奏（クラリネット主役）

木管楽器の説明の後、クラリネットが主役の曲としてクラリネットポルカが演奏されました。

6-1. 楽器の説明④打楽器

楽器の説明の最後は打楽器で、パーカッションの藤原 靖久氏からお話をありました。打楽器の歴史自体はとても古く、楽器としてだけではなく長く通信手段として使われてきましたが、オーケストラで使われるようになったのは最近のことです。ただしティンパニなどはモーツアルトの時代でも交響曲やオペラの序曲などで使われていました。打楽器の演奏法には主に【叩く、振る、擦る】の三つがあります。これらの演奏法を駆使してパーカッションの藤原 靖久氏がご自身で作曲されたオリジナル曲を小太鼓とマラカスで演奏してくださいました。

6-2. 楽器演奏（打楽器主役）



中央で太鼓を叩くパーカッションの藤原氏と団員の皆さん。札響の団員による【おもちゃのシンフォニー】の演奏に続いて、北大生もパーカッションの演奏に挑戦しました。



北大生はカッコウ笛、水笛とギロに挑戦しました。団員の横で各楽器の指導を受けながら、どうにか北大生版の演奏も無事に終了しました。

7. 質疑応答

Q. ヴァイオリンとヴィオラの違いは何か？

A. 端的にいえば、大きさが違います。大きさが違うことにより、出せる音の高さや音色が違ってきますので、必然的にアンサンブルの中での役割が異なってきます。ヴァイオリンは合唱で言うところのソプラノ、ヴィオラはアルトを受け持つといった感じです。フランス語ではヴィオラのことを「アルト」と呼ぶこともあります。

現在残っている楽器の例ですが、ヴァイオリン族にはヴァイオリン、ヴィオラ、チェロなど、ヴィオール族はヴィオラ・ダ・ガンバなど。コントラバスはどちらにも入れる場合があります。

形状的な特徴としては、ヴァイオリン族は裏板が膨らんでいる・胴体中央部のくびれが鋭角になっている・ネックと胴体のつなぎ目がまっすぐ(垂直)になっている・弦が 4 本、など。ヴィオール族は裏板が平板である・くびれが比較的鈍角・ネックと胴体のつなぎ目がなで肩になっている・弦が 5 本以上で弾く弦のほか共鳴弦がある場合もある、など。この観点から見ると飯田のコントラバスは両方の特徴を持っていることが分かります。

歴史的にはヴィオール族の方が古いようで、もともと貴族の楽器でした。そして 16 世紀頃は「この手の形状の楽器」をまとめて「ヴィオラ」と読んでいたようです。「ヴィオラ・ダ・ガンバ」は「脚のヴィオラ」、「ヴィオラ・ダ・ブラッチョ」は「腕のヴィオラ」といった具合に。この文脈での「ヴィオラ」と、現代の楽器の名称としての「ヴィオラ」は別物です。

ヴァイオリン(族)は庶民の楽器です。小さな音で静かな場所で優雅に奏でる「ヴィオール族」の楽器より、屋外で大きな音で華やかに演奏できるよう改良(改悪?)されたと言われています。しかしながら現在ではヴァイオリン族の楽器の方が主流になっています。

Q. どうして弦楽器は古いほど値段が高いのか?

A. 弦楽器は基本的に材料となる木材が良く乾燥しているほど安定した良質の音が出る。そのため古い楽器ほど希少で値段が高くなる。なお本格的な製作者は、「古い木材を買う」のではなく、良質な木材を自ら仕入れ、何年も乾燥させてから制作するようです。

Q. 木管楽器の場合にも弦楽器のように古いほど値段が上がるのか?

A. クラリネットなど黒檀でできている楽器はあまり長持ちしないので音が悪くなってきたら買い換える。木管の場合は値段よりも楽器との相性のほうが演奏に影響します。